

経営比較分析表（令和元年度決算）

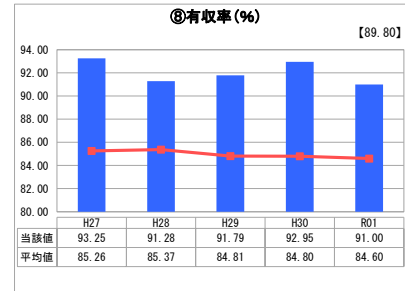
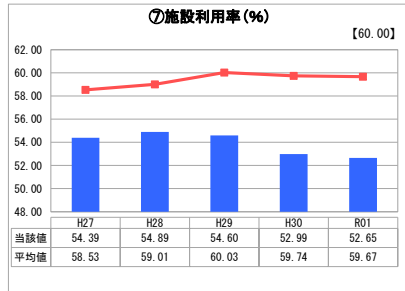
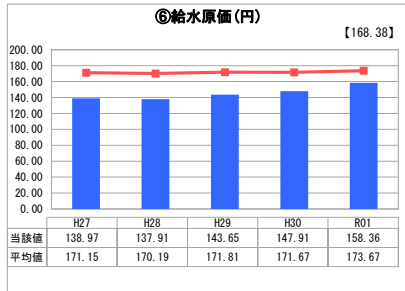
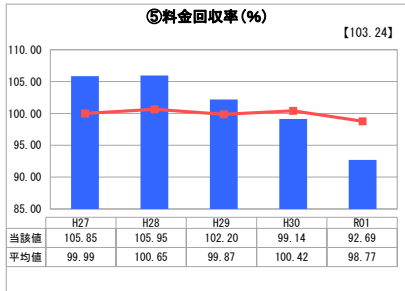
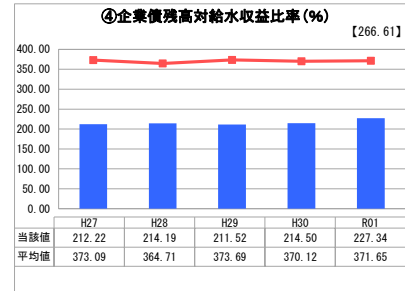
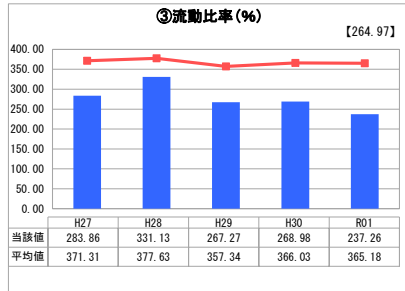
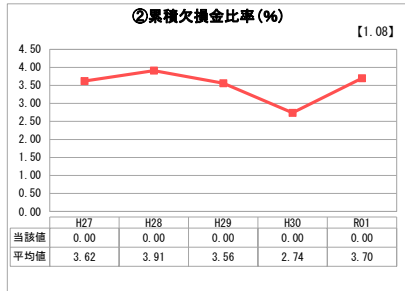
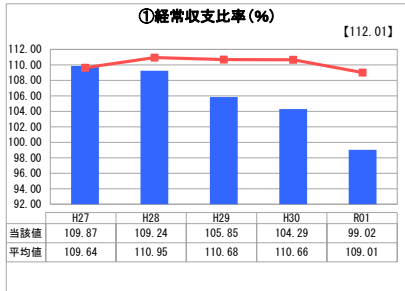
埼玉県 毛呂山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家賃料金(円)	
-	80.13	99.77	2,167	

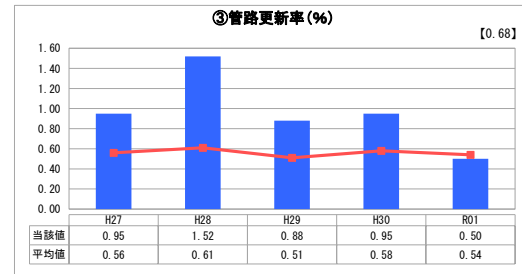
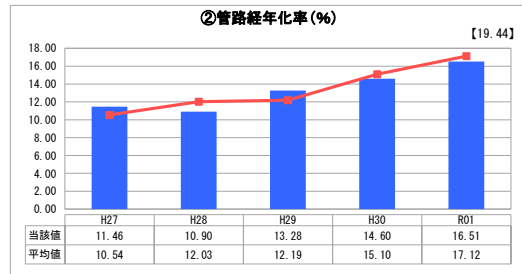
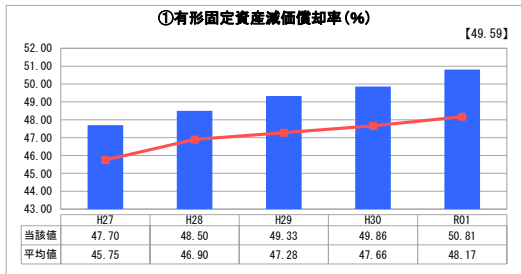
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,551	34.07	984.77
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
33,269	24.20	1,374.75

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
100%を下回り、単年度の収支が赤字である。早急に経営改善を行う必要がある。
- ②流動比率
類似団体より下回っているが、100%を大きく上回っており、短期的な債務に対する支払能力は確保されている。
- ③企業債残高対給水収益比率
給水収益が減少を続けているため、更新事業の財源としての企業債の活用が今後増える予定。そのため上昇することが見込まれる。
- ④料金回収率
100%を下回っており、給水に係る費用が給水収益で賚っていないことを示している。これは、給水収益が減少しているにも関わらず費用がなかなか削減できていないためである。給水収益を増加させるため料金改定を実施する。
- ⑤給水原価
有収水量1㎡あたりにかかる費用を示すもので、類似団体平均値、全国平均を下回り低水準であるが、年々上昇している。費用の削減をより一層行う必要がある。
- ⑥施設利用率
日配水能力に対する一日平均配水量の割合を示すもので、類似団体平均値を大きく下回っており、施設規模に対して効率的に利用できていない状況である。今後も配水量は減少するため、適正な施設規模の検討を行う必要がある。
- ⑦有収率
類似団体平均値を上回っている。今後も、この水準を維持できるよう努める。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
数値が高いほど法定耐用年数に近い資産が多いことを示している。類似団体平均値、全国平均値も同様だが年々上昇しており施設や管路の老朽化が進んでいる状況である。
- ②管路経年化率
法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示している。類似団体平均値を下回っているが上昇しているため、老朽管の更新を積極的に実施しなければならない。
- ③管路更新率
年度によってばらつきがみられる。経営が厳しく、更新事業の財源が確保できないため低い水準となっている。料金改定を実施し、その財源をもとに計画的に更新を行う。

全体総括

平成29年度に策定した経営戦略において令和2年度には経常損益が赤字に転じる見込みとなり、水道料金改定の検討を進めてきたが、令和元年度決算において約700万円の純損失を計上した。

人口減少や節水機器の普及により給水収益が減少を続けるなか、老朽化した水道施設の更新を計画的に行うためにも水道料金を改定し、財源を確保する必要があるため、令和3年10月に平均改定率19.8%の値上げを実施する。

その財源の確保により、特に管路で多く残っている石綿セメント管の更新を早急に行い、将来にわたり安心安全で安定的に水を供給できる経営を維持していく。